

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度	平成 24 年度
--------	----------

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	大学等仙北キャンパス誘致事業				
担当課係名	企画政策 課	政策推進 係	作成者	齋藤 和彦	
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画のページ
	基本計画	学校教育の充実と教育環境の整備			
	主要施策	仙北キャンパス開校促進活動			
予算費目	一般 会計	2 款 総務費	1 項 総務管理費	6 目 企画費	
事業期間	平成 22 年度 ~ 平成 年度		新規/継続の区分	継続	
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				
根拠法令等					
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直 営 <input type="checkbox"/> 直営（一部民間委託） <input type="checkbox"/> 民間委託（全部） <input type="checkbox"/> 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市民
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	市民講座的な生涯学習大学（仙北キャンパス）を開校し、そこに国内主要大学から教授等を講師としてお招きし、学会における仙北市の知名度をアップさせ、仙北市へのキャンパス進出、農場設置、ゼミ合宿誘致等のきっかけを作りたい。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	これまでの大学関係者とのパイプを保ち、市民のための講演会等を開催する。

【事務事業の推移】

		項 目		単 位	23年度実績		24年度実績		
					23年度実績	24年度実績	23年度実績	24年度実績	
効果	活動指標	誘致活動回数	目標	回	2	2			
			実績	回	3	1			
			達成度	%	150.0%	50.0%			
	成果指標	キャンパス誘致数	目標	校	1	1			
			実績	校	0	0			
			達成度	%	0.0%	0.0%			
投下コスト	項 目		総事業費		23年度決算額(千円)	24年度決算額(千円)			
	事業費（人件費を除く）(A)				236	66			
	人 件 費 (B)		—		424	497			
		職 員 数		—		0.05	0.06		
		職 員 平 均 人 件 費		—		8,479	8,286		
	(A) + (B) 投下コスト		—		660	563			
	財源内訳	国 庫 支 出 金				0	0		
		県 支 出 金				0	0		
		地 方 債				0	0		
		そ の 他				0	0		
		一 般 財 源				660	563		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		220,000	563,000			
	市民1人当たりのコスト(円)		—		22	19			

【事務事業の今までの成果】

講演会等の開催に向け誘致活動を行っているが、成果に結びついていない状況である。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	特になし
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	様々な内容の講演会等を開催してもらいたいという要望。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
C 2	A 現状のまま継続（実施）	キャンパス誘致については、現状では厳しい状況にあるが、引き続き常設のキャンパス誘致に向け活動を行うため、C2判定とした。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

キャンパス誘致については現状では厳しい状況にあるが、引き続き常設のキャンパス誘致に向け、有効な手段を検討しながら活動を継続する。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
C 2	どのような大学誘致を目指すのかを明確にし、それに向けて進めていく必要があると考えます。

一次評価診断図

